

沖縄平和学習会に参加して

大阪市職港区役所支部

六月一日から三日、南大阪平和人権連帯会沖縄縄現地学習会に参加してきました。

梅雨真つ只中の沖縄は毎日どんより曇り空。雨

1日目:那覇空港～キャンプシュワブゲート前～ヘリ基地見学
2日目:嘉手納基地～千原村～全米兵アトリエ見学と懇談
3日目:米軍基地～平和の礎～ひめゆり資料館～護国神社～米軍沿岸

【報告:大阪産業経済労務支部 竹内麻衣子】

も降りじめつとしていましたが、時々吹く冷たい風が気持ちよかったです。沖縄には個人的に何度か訪れた事がありますが戦跡では、ひめゆりの塔と資料館へ一度訪れたただけでした。

今回の学習会では、米軍基地や戦跡めぐり、米軍基地問題と七三年前の沖縄地上戦での悲惨な出来事について学んできました。

米軍基地問題

バスで沖縄本島をめぐるながら米軍基地の広大な土地に驚かされました。

基地の中にはきれいな建物や並んでいます。学校、病院、映画館、ゴルフ場等あるそうです。

嘉手納基地が見渡せる道の駅「嘉手納」の屋上で嘉手納基地爆音訴訟原告団事務局長平良氏より、基地被害の実態について説明を受けました。

米軍機墜落や、弾薬輸送船爆発、米兵による暴行殺人、レイプ殺人、交通事故等での沖縄県民の死亡事故数は七百人を超えるそうです。

また、基地周辺住民は毎日、深夜にも及ぶ米軍



機による爆音被害に悩まされており、たくさんの健康被害が起きています。

同じように米軍基地のあるイタリア・ドイツでは、米軍の活動にそれぞれの国の法律が適用される飛行訓練などの軍事行動の制限が大幅に強化されているのに対し、日本は原則として国内法は適用

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう!

されません。

日米地位協定はこれまで一度も改定されず、いわばアメリカの言いなりとなつていきます。

辺野古ジゴンの浜テント村近くにあるフェンス越しに、辺野古新基地建設現場を見学しました。フェンスの向こう側から、一人の警備員がこちらの様子をうかがっていました。この警備員は地元の漁師さんだと、平和ガイドさんが教えてくれました。

安いとは言えない日常を受け取り、一日中海を眺めて座っているそうです。「アンケートを取れば基地反対の人が多い。」

でも選挙となれば違う」と平和ガイドさん。

二〇一八年二月の名護市長選では、基地容認派の渡具知氏が当選。渡具知氏は選挙で、高校生まで医療費無償化を掲げました。基地は反対、でも自分の生活のことを考えると、という複雑な住民感情を感じました。

読谷村役場の九条の碑
この学習会で印象に残ったものの一つが、読谷村役場の玄関前にある、憲法九条の碑です。

読谷村は、沖縄地上戦で米軍が最初に上陸した土地でした。読谷村一帯はたちまち米軍に占領さ



れ、当時多くの村民が亡くなったそうです。戦後も、読谷村のほとんどの土地は米軍に占領されたままでした。

一九六五年には、パラシュート降下訓練中にトレーラーが村に落下し、小学生の女の子が死亡。村民の米軍に対する反発感情は高まります。

村民による抗議行動は勢いを増し、行政も基地

返還に向け粘り強く活動を続けました。その結果一九九七年、まだ基地が多くの土地を占拠していた読谷村の中心地に、村民のための公共施設である読谷村役場の庁舎が建てられます。そして、二〇〇六年には、読谷飛行場の全面返還が果たされました。

現在では、読谷村は日本一人口の多い村となっています。

戦争のない平和な生活の為に闘ってきた、村民と行政の強い思いが、この憲法九条の碑に象徴されているように感じました。

(次号に続きます)